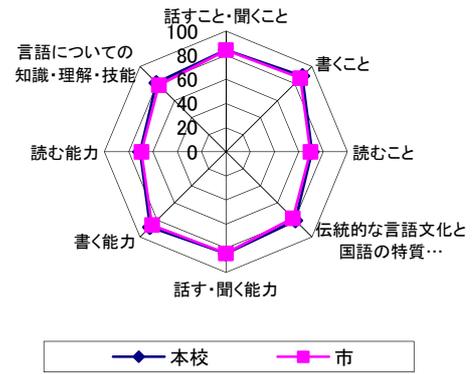


宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	84.6	84.3	81.2
	書くこと	88.9	86.4	74.0
	読むこと	70.7	69.5	64.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.7	77.9	70.6
観点別	話す・聞く能力	84.6	84.3	81.2
	書く能力	88.4	86.0	74.2
	読む能力	70.7	69.5	64.8
	言語についての知識・理解・技能	80.9	78.1	70.6



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (国語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

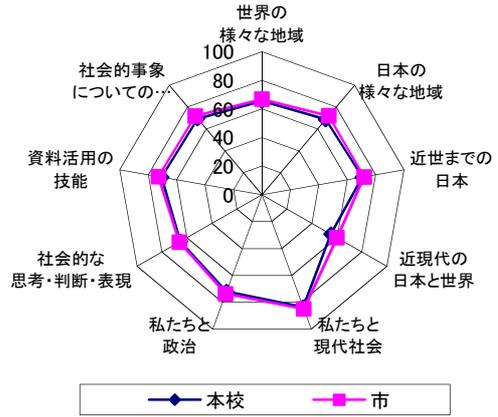
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○全体的には宇都宮市の正答率を上回っている。特に「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。」「話し合いの流れを的確にとらえて、司会者として適切な発言をすることができる。」の2つで正答率が高くなっている。 ●次のねらいの問いでは市の正答率を下回っている。「話の内容を正確に聞き取ることができる。」	・他の人の話を正確に聞き取り、自分の話し方を工夫する態度を身に付けさせたい。
書くこと	○全体的には宇都宮市の正答率を上回っている。 ●次のねらいの問いでは市の正答率をわずかに下回っている。「自分のとった立場の理由を書くことができる。」	・書く機会を増やして進んで書くことを習慣化させるとともに、分かりやすく説得力のある書き方を習得させたい。
読むこと	○全体的には宇都宮市の正答率を上回っている。特に登場人物の心情をとらえる問いの正答率は市や全国をかなり上回っている。 ●次の2観点では市の正答率を下回っている。「文章の構成や展開をとらえることができる。」「登場人物の様子から、その心情を推測することができる。」	・文章を構成的に捉えること、直接的にでなく情景や行動、様子から心情を読み取ることができるようにさせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○全体的には宇都宮市の正答率を上回っている。特に小学校で学習した漢字を書くことや類義語・対義語についての理解では市の平均をかなり上回って正解している。 ●助動詞についての理解の問いでは市の正答率を下回っている。	・言語に関して、ポイントでなく、広い知識や理解を身に付けさせたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	世界の様々な地域	65.6	66.8	54.1
	日本の様々な地域	68.8	72.1	63.4
	近世までの日本	70.7	72.0	62.0
	近現代の日本と世界	55.2	60.0	55.2
	私たちと現代社会	83.6	85.0	73.0
	私たちと政治	72.0	73.7	71.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	65.4	66.1	52.0
	資料活用の技能	70.6	72.8	63.0
	社会的現象についての知識・理解	69.4	72.0	64.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

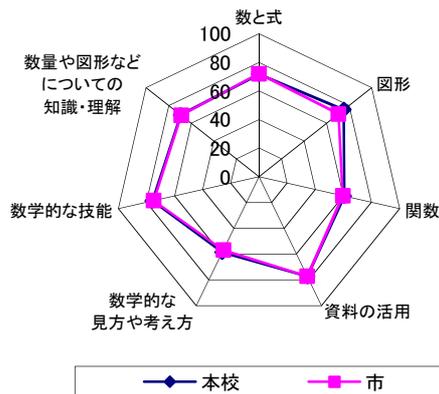
領域	本年度の状況	今後の指導の重点	
地理	世界の様々な地域	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に市の正答率とほぼ同じである。 ○アジア州の人口や資源に関する理解をもとに、図の構成について考える問題の正答率が市を上回っている。 ●アジア州の人口分布に関する図を読み取る問題の正答率が市よりも低い。 ●イギリスの貿易相手国の変化の理由を考える問題の正答率が市よりも低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を活用して、資料を読み取る能力やその要因を考察する能力を育成する必要がある。普段の授業において、知識の習得にとどまることなく、資料を活用し地域の特徴を読み取る活動や「なぜ？」と考察する学習活動を系統的に取り入れて展開することが大切である。
	日本の様々な地域	<ul style="list-style-type: none"> ・市の正答率よりもやや低い。 ○自然災害についての理解を問う問題の正答率が高い。 ●日本の気候区分についての理解をもとに、気温図を読み取る問題の正答率が低い。 ●中京工業地帯についての理解をもとに、グラフを読み取る問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解をもとに、それを活用して資料を読み取る能力を育成する必要がある。知識の習得にとどまらずに、それを裏付けるための資料を読み取る学習活動に力を入れる必要がある。また、学習のまとめとして、学習したことをフル活用してレポートにまとめる活動などを重視していきたい。
歴史	近世までの日本	<ul style="list-style-type: none"> ・市の正答率とほぼ同じ程度である。 ○縄文時代の遺跡についての理解をもとに資料を読み取る問題や江戸幕府の大名統制に関する資料を読み取る問題の正答率が高い。 ●奈良時代の税の理解をもとに、皇族の生活の様子について資料を読み取って考え、説明する問題の正答率が低い。 ●江戸時代の農業の発達の背景について資料を読み取って、説明する問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の知識・理解をもとに、時代の特色を考察し、説明する能力を育成する必要がある。単元のまとめとして、時代の特色をまとめて説明する場面をできるだけ多く取り入れたい。また、政治史よりも経済史や産業の発展に関する内容定着が弱い傾向があるため、各時代の社会の様子や人々の生活の移り変わりに関する学習に力を入れる必要がある。
	近現代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> ・市の正答率よりも低い。 ○朝鮮戦争とその影響についての理解に関する問題の正答率は市の正答率よりも高い。 ●日本の産業革命が貿易に与えた影響について、資料を読み取って考える問題の正答率が低い。 ●冷戦と世界の動きについての理解が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代史の学習内容の定着が弱く、課題である。近現代史は現在の日本を形づくる大きな要因であるので、理解を深め現代社会を考察する目を持つことは必要不可欠である。近現代史について、さらに丁寧に学習活動を展開し、学習内容の理解・定着を図っていききたい。
公民	私たちと現代社会	<ul style="list-style-type: none"> ・市の正答率とほぼ同じである。 ○情報化の進展に関する資料を読み取る問題の正答率は、市よりも高い。 ●対立・合意・効率・公正についての理解を問う問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この領域は公民的分野の導入であり、自分たちが暮らす現代社会の特徴を理解することに重点が置かれた単元である。情報化や少子高齢化、グローバル化についての理解は定着しているが、反面民主的な話し合い、解決のため、合意・効率・公正についての視点で考えることの理解が不十分である。具体的な場面を想定し、合意を得るために効率と公正の視点から考えさせ、話し合わせるような学習活動の工夫改善を図っていききたい。
	私たちと政治	<ul style="list-style-type: none"> ・市の正答率とほぼ同じである。 ○公共の福祉についての理解をもとに、実際の事例について考える問題の正答率が高い。 ○環境アセスメントについてよく理解されている。 ○法律案が成立する過程やしぐみについての理解が高い。 ●議院内閣制についての理解が不十分である。 ●地方自治における直接請求権についての理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治のしくみ、あり方についての理解を深める領域であるので、まずはしっかりとしくみを理解するように学習を進めることが大切であると考えられる。そして、その制度が採用されている理由について考察する授業を展開し、理解の深化を図っていききたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	71.7	72.1	70.7
	図形	75.3	70.5	58.1
	関数	60.7	59.6	52.1
	資料の活用	77.3	77.2	64.1
観点別	数学的な見方や考え方	58.6	56.9	47.7
	数学的な技能	75.7	74.9	69.2
	数量や図形などについての知識・理解	69.3	68.9	59.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (数学では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

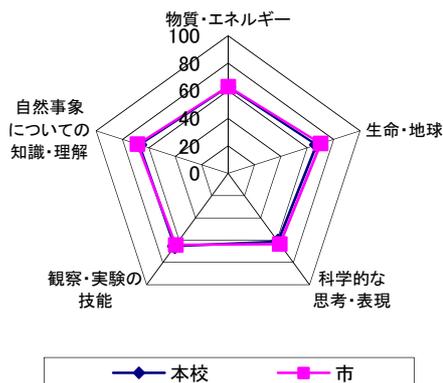
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	全体的には宇都宮市の平均正答率とほぼ同じである。乗法公式を利用した式の計算や因数分解で宇都宮市の平均回答率より低くなっており、その因数分解を利用した2次方程式でも、宇都宮市の回答率を下回っている。その他の式の計算や平方根の計算では、宇都宮市の平均回答率を上回っている。	乗法公式を含めた、さまざまな因数分解のパターンを練習させて定着させる必要がある。因数分解に自信をつけさせ2次方程式の学習につなげていくことで学力が定着していくと考えられる。
図形	全体的に宇都宮市の平均回答率を上回っている。特に同位角や錯角を利用した角度を求めること、三角形の合同の証明は、宇都宮市の平均回答率より10ポイント近く高くなっている。相似な図形の問題では、宇都宮市の平均回答率と同等になっている。	相似な図形の問題で、辺の長さを比で求める練習を繰り返す必要がある。また、相似な図形の証明でも、辺の比に注目して解くことができるようになる必要がある。
関数	全体的には宇都宮市の平均回答率を少し上回っている。Xの2乗に比例する関数の変域と制動距離問題のグラフの理解が不十分になっている。比例や1次関数は宇都宮市の平均回答率を上回っている。	2乗に比例する関数の問題を基礎から見直し、グラフの形や変域について理解を深める必要がある。その上で、さまざまな事象の例をグラフに表したり、読み取ったりすることを繰り返し行い理解させる必要がある。
資料の活用	全体的には宇都宮市の平均回答率とほぼ同じである。度数分布表の相対度数を求める問題の正答率が低い。確率の問題では、複数のものを扱う問題になると正答率が低くなっている。	度数分布表はやり方が決まっているので、繰り返し行い定着させる必要がある。確率の問題に関しては、樹形図や表を利用して、問題に合わせて使い分けができるようになるまで練習する必要がある。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	63.0	63.0	57.9
	生命・地球	67.1	70.2	65.2
観点別	科学的な思考・表現	61.2	63.5	57.5
	観察・実験の技能	65.4	64.3	61.5
	自然事象についての知識・理解	67.3	68.6	64.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

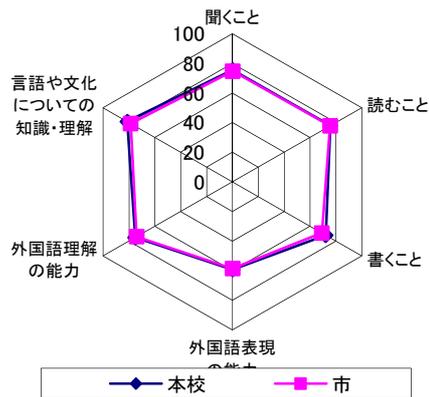
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市と比べると正答率は同じである。 ○電流の性質では、3問中2問が市の正答率より上回っていた。観察・実験の技能では、市より+1.1ポイント高く、観察・実験に時間をかけていた効果と思われる。 ●1, 2年生の内容について、十分に定着していないため、正答率が下がっている。また、科学的な思考・表現について、主たる観点の設問で5問のうち1問しかできていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、科学的な思考・表現を意図した、設問などを多くしていきたい。また、基礎、基本の定着をはかるために、授業のはじめなどに電流の内容や運動(速さなど)などの計算練習をする時間を確保していきたい。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ○生物の成長と生殖については、3問のうち2問が正答率が市より上回っていた。3年生で学習した内容でもあり、十分な定着がはかられていた。 ●植物の分類や火山活動と火成岩では、全設問で市の正答率より下回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年生の内容についての内容が十分定着していない。そのため、3年生の授業の中で、関連する内容の時に復習する時間を設けるなどして、学習内容の定着をはかっていきたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	75.5	74.8	66.0
	読むこと	75.7	75.5	66.9
	書くこと	72.1	69.1	64.8
観点別	外国語表現の能力	59.2	58.5	53.9
	外国語理解の能力	75.2	74.1	65.7
	言語や文化についての知識・理解	81.4	78.8	71.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○宇都宮市の平均より少し上回っている。特に、英文を聞いて絵から適切なものを選択する問題の正答率が高い。</p> <p>○対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題においても正答率が高かった。</p> <p>●まとまりのある英文を聞いて、その要点をつかみ取り、理解する問題が苦手なようである。</p>	<p>・聞き取りに関しては、まとまりのある英文を聞いて、話の要点をつかみ取るような訓練を定期的に行う必要がある。</p>
読むこと	<p>○宇都宮市の平均より少し上回っている。特に、既習文法における適語補充問題においての正答率が高かった。</p> <p>○長文読解に関しては、対話文の流れや与えられた情報から適切な数や内容を選択する問題の正答率が高かった。</p> <p>●一方で、説明文において、要点を把握して内容を問う問題の正答率が低かった。</p>	<p>・長文読解の中でも、説明文や物語の文を中心的に読み、要点をつかみ、その内容を問う問題練習を繰り返す必要がある。</p>
書くこと	<p>○自分の経験を英語で表現する文を書いたり、その場所の紹介を英語で書きあらわす文を書く正答率が高かった。</p> <p>●一方で、相手に依頼したり、たずねたりする文を書く問題においては正答率が低かった。</p>	<p>・毎回の授業の中でも、必ず英作文を書く活動を取り入れ、それぞれの課ごとの文法を同時に習得できるように努めていきたい。また、ある程度まとまりのある英文を書けるようにするために、英語で書くことについての抵抗力をなくしていく必要がある。</p>